

ねらい

- ・(子ども)1年生と5歳児の交流で、より相手意識をもち、親しみやつながりをもつ。
- ・(教師)架け橋期の子どもの姿を幼保小の教員で共有し、育ちのつながりについて考える。

本時のポイント

- ・それぞれの活動の事前事後の話し合いで、それぞれのねらいや子どもの姿を共有し、次への活動へつなげていった。
- ・手紙やビデオレター、写真などを活用し、相手とのつながりを意識できるようにし

実践内容

— 1年を通して子ども同士のつながりを大切に—

今年度の交流活動について考える(4月)

・より親しみがもてるように、ペア活動を取り入れることを確認。

初めての出会い(5月)

○図画工作科「すなや つちとなかよし」の単元で、砂場交流

互いに親しむ(6月)

○生活科「なつと ともだち」の単元で、水遊び交流

ペアの友達と力を合わせて(10月)



触れ合い遊びで、心もほぐれる



「行くよ!」「OK!」
相手を意識した関わり

事前にマークを配布し、当日、同じマークの友達とペアでの交流をした。
運動遊びの内容は、ペアで協力したり、関わりを深めたりできるような活動を取り入れた。
「どれがしたい?」「こっちにする?」と、1年生が、率先してペアの友達の思いを聞きながら、力を合わせて楽しんでいた。

1年生に
もらった手紙

読める?

招待状を渡したい(11月)

1年生から、ペアの友達宛の音楽発表会の招待状をもらい、近隣の公園で交流した。招待状を読んでもくれる1年生や、ペアの1年生に親しみをもつ5歳児など、再会を喜び、関わることを楽しんでいた。



招待状をもらって
嬉しそうな5歳児

ようこそ!音楽発表会(11月)

ペアの友達を探す姿や、歌や楽器の演奏に憧れをもって見る姿があった。



成長を自覚

小学校への期待



1年生への憧れ

見ていてあげるし、登って見たら?

生活科「もうすぐ2年生」(2月)

・「小学校のことを教えたい!」「ペアの友達が知りたいことって何だろう?」と、インタビューをしたり、事前にもらったマップを見ながら、楽しみにしたりする姿

年上としての自信

交流を振り返って

子どもの育ち 名前を呼び合う関係になったことで、相手を思って、手紙や招待状を書いたり、憧れや親しみを感じたりする姿が見られ、つながりを深めることができた。小学校に親しみを感じることもできた。

教師の学び その時期の子どもの姿から、互いのねらいを共有し、活動内容を考えることの大切さを感じた。相手意識をもてたことで、より主体的に、より具体的に、“こんなことをしたい”という思いが出てきた。“子どものやりたい思い”と“教師の願い”をうまくかみ合わせながら、主体的な活動にすることが大事である。ペア活動を通して、相手のことを思い、よりつながりが感じられると実感した。